

1 科目の概要

学年・年次	教 科	科 目	選 択	区 分	単位数
1 年次	国語	現代の国語		必修・必修・選択	2
科目の 目 標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 ①知識及び技能 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 ②思考、判断、表現 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ③主体的に学習に取り組む態度 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。				
教科書 (出版社)	・「現代の国語」(第一学習社)	副教材 (出版社)	・書いて覚えて実践する 高校生の語彙と漢字 ゴイカン(桐原書店) ・新訂版 常用国語便覧		
留意点				開 講 予定人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようとしている。
思考・判断・表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めようとしている。
主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。

(2) 評価方法

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法			
定期考査・小テスト	◎	◎	
ワークシート		◎	○
学習観察			◎

3 履修上および学習上の注意

読書をこころがけ、積極的に論理的文章・文学作品に触れるようにしてください。

4 年間指導計画（評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	○オリエンテーション① （使用教材、成績の付き方） （Chromebook の使い方）	1	【知】主題に至る論の構造を把握し、主張に説得力を持たせるための展開について考える。 【思】内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する方法を考える。 【主】ノートやメモをとるなどして、理解しようとしている。 【知】常用漢字を文や文章の中で活用する。 【思】自分の考えや事柄が的確に伝わるように、根拠の示し方や説明のしかたを工夫する方法を考える。 【主】積極的に意見文を書いている。 【知】具体例の示し方、抽象（意見）の部分のとらえ方を理解する 【思】具体と抽象部分を意識し、見分けながら読み進める 【主】本文中の具体と抽象の部分を見つけようとしている。 【知】具体例の示し方、対比表現の仕方を理解する 【思】具体例と対比表現を活かし、自分の意見の根拠をわかりやすく提示する 【主】わかりやすい具体例や対比表現をしようと工夫を凝らしている 【知】話し合いの基本的なマナーを理解する 【思】自分が考えた下人の行為の是非を、相手に分かりやすく伝える。また、相手の考えを尊重しながら聞く。 【主】自分の考えをしっかりと持とうとし、相手に伝えようとしている。 【知】語彙知識を増やす 【思】筆者の主張と根拠の関係を明確に捉えることができる 【主】筆者の主張と根拠の関係を捉えようとしている 【知】情報に関するモラルや適切な知識を身につける 【思】情報に関する自分なりの考えを持ち、説得力を持って他者へ伝える文章を書くことができる 【主】自分の考えを根拠とともにわかりやすく書こうとしている 【知】文章の情報が事実か意見か推論か見分ける手法を理解する 【思】事実、意見、推論を見分けながら文章を読むことができる 【主】事実、意見、推論を見分けようと文章を根気強く読んでいる 【知】批評の基礎知識を身につける 【思】自分の作品の評価を明確に示しながら、根拠を持って文章を書くことができる 【主】自分の意見をはっきりと示しながら文章を書こうとしている 【知】発表に適した適切な資料の作成、提示の仕方を理解する 【思】より多くの人に納得してもらえる発表をすることができる 【主】多くの人に納得してもらえるような工夫をしようとしている
5	○評論の基本構造を理解する 「『本当の自分』幻想」	読 4	
5	○意見文の構成 「砂に埋もれたル・コンピュジエ」 主張に説得力を持たせた意見文を書く	書 7	
6	○具体と抽象の関係を捉える 「ものとことば」	読 5	
6	○具体例の提示と対比表現 「水の東西」	書 7	
7			
8	○人の行為の是非を問う 「羅生門」 下人がとった行動について話し合う	話聞 10	
9	【前期期末考査】	1	
10	○筆者の主張をとらえる 「文化としての科学」	読 4	
11	○自分の意見を持つ 「現代の世論調査」	書 8	
12	○文章の情報を適切にとらえる 「『私作り』とプライバシー」	読 4	
1	「AI は哲学できるか」		
2	○作品の批評をする 「城の崎にて」	書 8	
3	【後期期末考査】	1	
	○自分たちの考えを、資料をまじえて発表する 「法律の改正に関わる文章を読み蔵場得る」等	話聞 10	

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
1 年次	国語	言語文化	-	必修・ 必修 ・選択	2
科目の 目 標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 ①知識及び技能 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 ②思考、判断、表現 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ③主体的に学習に取り組む態度 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う				
教科書 (出版社)	高等学校 言語文化 (第一学習社)	副教材 (出版社)	・読んで見て覚える 重要古文単語 315 [三訂版] (桐原書店) ・体系古典文法 九訂版 (数研出版) ・漢文必携 (桐原書店)		
留意点				開 講 予定人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めようとしている。
思考・判断・表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしようとしている。
主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養おうとしている。

(2) 評価方法

観点 評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
定期考査・小テスト	◎	◎	
レポート・グループ ワーク		◎	◎
学習観察			◎

3 履修上および学習上の注意

日頃から本や新聞を読むよう心がけ、積極的に文学作品に触れるようにしましょう。
--

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	オリエンテーション （使用教材、成績の付き方） （Chromebook の使い方） ○古文入門	1 8 古読	【知】歴史的仮名遣いや古今異義語、用言の活用（動詞）について、文語のきまりを理解している。 【思】説話という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉えている。
5	・古文の学習 ・「児のそら寝」（宇治拾遺物語） ＊歴史的仮名遣い、音読、用言（動詞）		【思】作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈している。 【主】時間の経過による言葉の意味の変化を理解し、学習の見通しをもって調べたり説明したりしようとしている。
6	・「なよ竹のかぐや姫」（竹取物語） ※単元テスト	4 古読 1	【知】用言の活用（形容詞・形容動詞）について、文語のきまりを理解している。 【思】伝奇的作り物語という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉えている。 【主】初期仮名物語に積極的に親しみ、学習課題に沿って伝奇性や心情描写の特色を捉えようとしている。
7	○漢文入門 ・漢文の学習	4 古読	【知】漢文を訓読するための基礎知識として、返り点の種類と使い方、助字のはたらきと意味、再読文字の種類と読み方を習得している。
8	・訓読に親しむ（一）～（三） ○故事成語	6 古読	漢文の訓読に慣れるとともに、現在使われている言葉が漢文に由来することを理解している。
9	・漁父之利 ・蛇足 【前期期末考査】	1 6 古読	【思】文章の種類を踏まえて、たとえ話を読み解き、内容や展開を的確に捉えている。 【主】日常的に使う故事成語や格言の量を積極的に増やし、漢文が我が国の言語文化と不可分の関係にあることを理解しようとしている。
10	○歌物語 ・伊勢物語～芥川 ・読み比べる・大和物語		【知】「歴史の窓」と「筒井筒」の課題を踏まえて、作品の歴史的・文化的背景を理解している。 【思】歌物語では感動の中心が歌にあることを理解し、内容や展開を的確に捉えている。 【主】歌物語に積極的に親しみ、学習課題に沿って和歌の果たす意味を捉えようとしている。
11	○史伝 ・完璧 ・先従隗始	6 古読	【知】訓読のきまりを理解する。由来を知り、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解している。
12	○近現代の詩歌 ・その子二十 ・こころの帆 ※単元テスト	8 近読 1	【思】史伝という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉えている。 【主】積極的に史伝の特徴を理解し、考え方や人物像、たとえ話における論理を説明しようとしている。
1	○古典の詩歌 ・万葉集 ・古今和歌集	6 古読	【知】我が国の言語文化に特徴的な、短歌・俳句の表現の技法とその効果について理解している。 【思】作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈している。 【主】短歌・俳句の形式や表現を進んで理解し、学習の見通しをもって短歌文芸に親しもうとしている。
2	・新古今和歌集 ・古典の和歌を現代の言葉で書き換える	5 書	【知】我が国の言語文化に特徴的な和歌の表現の技法とその効果について理解している。
3	○伝統と文化 ・祭りの笛 【後期期末考査】	4 近読 1	【思】和歌を書き換えて、互いの解釈を比べ合い、内容を深めている。 【主】古典の和歌を現代の言葉で書き換える意義を積極的に理解し、学習課題に沿って、古典の和歌を現代の言葉で書き換えようとしている。
	○近現代の詩歌 ・一つのメルヘン ・自分の感受性くらい ・I was born	8 近読	【知】我が国の伝統文化に関する題材を選んで、随筆に書き表している。 【思】伝統文化に関して積極的に題材を集め、集めた題材のよさや味わいを吟味しようとしている。 【主】我が国の伝統文化に関する題材を選んで、随筆に書き表そうとしている。
			【知】文学史を理解している。 【思】象徴的な表現を読み解き、作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈している。 【主】象徴的な表現を読み取り、進んで作品世界を理解しようとしている。

1 科目の概要

学年・年次	教 科	科 目	選 択	区 分	単位数
1 年次	公民	公共	-	必修・必修・選択	2
科目の 目 標	①知識及び技能 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 ②思考、判断、表現 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。 ③主体的に学習に取り組む態度 よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。				
教科書 (出版社)	・公共 P U B L I C (数研出版)	副教材 (出版社)			
留意点				開 講 予定人数	

2 評価の方法

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	現代の諸課題を捉え概念や理論について理解しているとともに、諸資料から、倫理的主体的に活動するために必要となる情報を多角的かつ効果的に調べまとめている。
思考・判断・表現	現実社会の諸課題の解決に向けて事実を元に多面的・多角的に考察・判断・議論したりしている。
主体的に学習に取り組む態度	国家及び社会の形成者としてよりよい社会の実現を視野に現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。

(2) 評価方法

観点 評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
定期考査・小テスト	◎	○	
ワークシート	○	◎	○
学習観察		○	◎

3 履修上および学習上の注意

・「公共」は倫理、政治、経済、国際社会に分けられており、2～3年次の選択科目である「倫理」「政治・経済」の基礎となる科目です。 ・「18歳で成人」となる皆さんは、高校生になったのをきっかけに、世の中の動きをニュースなどで把握したり、各国の文化や考え方の違いを理解し、社会の一員となる準備をしましょう。

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	第1章 公共的な空間をつくる 私たち 第1節 青年期と自己形成 第2節 人間としての自覚 第3節 日本人としての自覚	7	【知】 青年期の意義、思想や三大宗教の内容が理解できている。 【思】 自己形成の課題について考察できている。思想や宗教、文化や伝統が自分自身の生き方に与えている影響に気付くことができている。 【主】 社会の一員としての自覚を深め、自己実現がめざせている。先哲の思想や生き方、日本の伝統思想や文化、外来思想から自分自身の生き方を検証し、主体的に追究できている。
5	第2章 公共的な空間における 人間としてのあり方生き方 第1節 西洋近現代の思想 第2節 現代の諸課題と倫理	9	【知】 近世・近現代の思想内容、地球環境問題や資源・エネルギー問題、生命科学や情報技術の進展などの事象について理解できている。 【思】 先人の生き方を通して、公共的な空間における人間としての在り方生き方を考察するための選択・判断の手掛かりが考察できている。 【主】 選択・判断の手掛かりとなる考え方をを使って、現代の諸課題を主体的に追究できている。
6	第3章 公共的な空間における 基本原理 第1節 民主社会の基本原理 第2節 日本社会の基本原理	7	【知】 法などの社会規範の役割、民主政治のあり方、日本国憲法の三大原理の内容、日本国憲法で保障されている権利が理解できている。 【思】 民主政治における国家と個人のあり方、日本国憲法における権利の保障と、他者の権利や公共の利益との調和について考察できている。日本の平和主義のあり方の変化について考察できている。 【主】 民主政治が自らの生活とかわっていることを理解し、社会に主体的に生きる人間のあり方生き方について思索を深められている。
7	第4章 現代の民主政治と 政治参加の意義 第1節 日本の政治機構	8	【知】 三権相互の関係と役割、行政機能が拡大している現状、選挙のしくみ、政党の役割、地方自治の現状と課題が理解できている。 【思】 行政機能拡大の是非、日本政治の課題と今後の見通し、地方自治の現状と身近な地域で行われている事例について考察できている。
8	第2節 民主参加と民主政治の 課題		【主】 裁判員制度の意義をふまえ積極的に参画する自覚を持つことができている。身近に自らが参加できる機会を発見し、主権者として参加しようという意欲を持つことができている。
9	【前期期末考査】	1	
	第5章 現代の経済社会と 経済活動のあり方 第1節 経済のしくみと市場機構	18	【知】 企業や政府の役割、市場メカニズム、各種経済指標、金融・財政のしくみ、戦後日本経済のあり方が理解できている。産業構造の変化と職業選択との関係や、中小企業や農業の果たしている役割と現状、契約の原則、労働問題や社会保障について理解できている。
10	第2節 財政と金融		【思】 現代の資本主義経済と市場メカニズム、GDPと豊かさとのつながり、景気の先行きと経済の動向について考察・判断できている。労働問題や社会保障について課題を発見し、解決の方法を考察できている。
11	第3節 日本経済の発展と変化 第4節 豊かな生活と福祉の実現		【主】 経済社会に主体的に生きる一員として、新聞などで情報を集め、現状と今後の日本経済について見通しがたてられている。労働問題や社会保障の課題について主体的に追究できている。
12	第6章 国際社会の動向と 日本の役割 第1節 国際政治の動向 第2節 国際政治の課題と日本の 役割	14	【知】 国際法の意義や国際紛争を解決する機関の役割、戦後の国際政治の流れ、国際社会における日本の役割、核軍縮への流れ、世界の紛争や人権問題について理解できている。貿易や外国為替相場のしくみ、戦後の国際経済の流れ、地域経済統合が進む世界の現状が理解できている。 【思】 国連など国際機関の現状と課題、国際社会の諸問題について考察・判断できている。貿易や為替相場の変動、地域経済統合が経済にどのような影響を与えるのか考察できている。
	第3節 国際経済の動向と国際 協力		【主】 国際政治や国際経済の課題、平和と安全を維持するため何が有効なのか、グローバル化した国際経済について主体的に追究できている。持続可能な社会のあり方について主体的に追究できている。
	【後期期末考査】	1	
3	持続可能な社会づくりの主体となる 私たち	5	

1 科目の概要

学年・年次	教 科	科 目	選 択	区 分	単位数
1 年次	数 学	数学 I	-	必修・必修・選択	3
科目の 目 標	数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。				
教科書 (出版社)	高等学校 数学 I (数研出版)	副教材 (出版社)	教科書傍用 4プロセス 数学 I + A 短期完成 データの分析ノート (ともに数研出版)		
留意点	特になし			開 講 予定人数	必修修のため全員

2 評価

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけるようにする。
思考・判断・表現	命題の条件や結論に着目し、数と式を多面的に見たり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。
主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

(2) 評価方法

観 点 評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
定期考査・単元テスト 小テスト	◎	◎	
ワークシート 授業中の発言・発表	○	◎	○
授業への取組姿勢 週末課題 長期休業中の課題	○	○	◎

3 履修上および学習上の注意

・習熟度別クラス展開を行う。 ・「教科書傍用 4プロセス 数学 I + A」を、家庭学習（予習・復習）で活用する。 ・「短期完成 データの分析ノート」を、データの分析にて活用する。
--

4 年間指導計画（評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	第1章 数と式	19	【知】展開や因数分解の計算を行うことができる。また、数の体系を実数まで拡張する意味を理解したり、数の概念に対する理解を深めることができる。 【思】式を、目的に応じて一つの文字に着目して整理したり、一つの文字に置き換えるなど、複雑な式を簡単な式に帰着させ、式の見方を豊かにすることができる。 【主】粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしている。
5			
6	【前期中間考査】	1	
	第2章 集合と命題	10	【知】集合と命題に関する基本的な概念を理解し、それを事象の考察に使うことができる。 【思】事象を論理的に表現する際の基礎となる知識や技能を身に付けた上で、色々な事象や数学の概念を多面的に見たり統合的に見たりすることができる。 【主】粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしている。
7			
8			
9	【前期期末考査】	1	
	第3章 2次関数	30	【知】関数の概念の理解を深め、関数を用いて数量の変化を表現する事の有用性を認識することができる。 【思】2次関数の値の変化を考察することを通じて、関数の最大値・最小値や2次不等式の解を求めることができる。 【主】粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしている。
10			
11	【後期中間考査】	1	
12	第4章 図形と計量	30	【知】鋭角での三角比の意味と相互関係について理解したり、鈍角まで拡張する意味と鋭角との関係を理解することができる。 【思】三角比や正弦定理、余弦定理を用いて、平面図形や簡単な空間図形の計量に活用することができる。 【主】粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしている。
1			
2			
	【後期期末考査】	1	
	第5章 データの分析	12	【知】目的に応じて複数の種類のデータを収集し、適切な統計量やグラフ、手法などを選択し分析を行い、データの傾向や特徴を理解することができる。 【思】主張の妥当性について、実験などを通して得たデータを整理して判断したり、批判的に考察することができる。 【主】粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしている。
3			

1 科目の概要

学年・年次	教 科	科 目	選 択	区 分	単位数
1 年次	数 学	数学A	-	必修・ 必修 ・選択	2
科目の 目 標	図形の性質、場合の数と確率について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。				
教科書 (出版社)	高等学校 数学A (数研出版)	副教材 (出版社)	教科書傍用 4プロセス 数学Ⅰ+A (数研出版)		
留意点	特になし			開 講 予定人数	必修のため全員

2 評価

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけるようにする。
思考・判断・表現	図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見出し、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力を養う。
主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

(2) 評価方法

観点 評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
定期考査・単元テスト 小テスト	◎	◎	
ワークシート 授業中の発言・発表	○	◎	○
授業への取組姿勢 週末課題 長期休業中の課題	○	○	◎

3 履修上および学習上の注意

・習熟度別クラス展開を行う。 ・「教科書傍用 4プロセス 数学Ⅰ+A」を、家庭学習（予習・復習）で活用する。

4 年間指導計画（評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4			
5			
6	【前期中間考査】		
7	第1章 場合の数と確率	34	【知】集合の要素の個数に関する原則について理解している。 順列・組合せの意味を理解し、総数を求めることができる。 確率の意味や法則について理解を深め、ある事象の確率や期待値を求めることができる。 独立な試行の確率を求めることができる。 条件付き確率を求めることができる。
8			
9	【前期期末考査】	1	【思】事象の構造、確率の性質や法則に着目し、場合の数や確率を求める方法を多面的に考察することができる。 【主】粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしている。
10			
11			
	【後期中間考査】		
12	第2章 図形の性質	34	【知】三角形・円・空間図形に関する基本的な性質について理解している。 【思】図形の性質について論理的に考察したり説明したりすることができる。 図形の性質や作図について統合的・発展的に考察することができる。
1			
2			【主】粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしている。
	【学年末考査】		
3		1	

1 科目の概要

学年・年次	教 科	科 目	選 択	区 分	単位数
1 年次	理科	化学基礎	-	必修・必修・選択	2 単位
科目の 目 標	①知識及び技能 日常生活や社会との関連を図りながら化学や化学現象への関心を高める。 ②思考、判断、表現 化学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。 ③主体的に学習に取り組む態度 目的意識をもって学習・実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を身につける。				
教科書 (出版社)	改訂版 化学基礎 (数研出版)	副教材 (出版社)	リード Light ノート 化学基礎 (数研出版)		
留意点				開 講 予定人数	

2 評価の方法

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	考查の他、観察・実験に対する「姿勢」「予想や考察」「器具の操作」「レポート」などから評価する。
思考・判断・表現	考查の他、ノートやレポートにおいて内容を適切にまとめているか、科学的な思考ができていかなどを評価する。
主体的に学習に取り組む態度	提出物や課題の取り組みから評価する。

(2) 評価方法

観 点 評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
定期考查・小テスト	◎	◎	○
レポート・提出物	○	◎	◎
学習観察		◎	◎

5 履修上および学習上の注意

1 日常生活の中で起こる様々な自然現象に興味をもち、その法則性について考える態度をもつこと。 2 疑問に思ったことを確かめてみようという態度をもつこと。 3 学んだことをより正確に記録する方法と態度を身につけること。
--

6 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	第1節 物質の構成と化学結合	14	【知】・混合物を分離する操作として、ろ過、蒸留、分留、昇華法、再結晶、抽出、クロマトグラフィーなどの方法をあげることができる。 【主】・身のまわりの物質が純物質と混合物に分類されることに興味をもつ 【思】・いろいろな物質を単体と化合物に分類することができる。 ・単体と化合物の違いについて説明することができる。
5	1 物質の構成	13	
6		13	
7	2 物質の構成粒子	10	【知】・原子の構成粒子である陽子・中性子・電子の個数・電荷・質量の関係について理解している。 【主】・各元素の特徴および周期表上の元素の配列について興味をもつ。 【思】・原子について、どのような粒子から構成されているかを説明することができる。
8			
9	3 粒子の結合	10	
10		10	【知】・それぞれの結合の種類について説明できる。 ・さまざまなイオン式や分子式、電子式、構造式で表しその構造を考えることができる。 【思】・原子間の共有結合を考えることによって分子の構造を予想することができる。 【主】・身のまわりの物質の結合の成り立ちについて興味を持つ。
	第2節 物質の変化		
	1 物質と化学反応式		
11			【知】・モルの概念を、質量や粒子数、体積と結びつけることができる。 【思】・原子量をもとに、化学反応の量的な関係を導くことができる。 【主】・化学反応が、化学反応式で表現できることがわかる。
12	2 酸と塩基の反応	10	
1		7	
2		8	【知】・酸や塩基の価数、電離度などの考え方があることを理解し、説明できる。 【思】・酸・塩基の性質を H^+ と OH^- で考える方法と、 H^+ の授受で考える方法から、酸と塩基を見きわめられる。 【主】・酸とは何か、塩基とは何かに関心をもつ。
3	3 酸化還元反応	10	
		7	

1 科目の概要

学年・年次	教 科	科 目	選 択	区 分	単位数
1 年次	理科	生物基礎	-	必履修	2 単位
科目の 目 標	①知識及び技能 日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身につける。 ②思考、判断、表現 生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 ③主体的に学習に取り組む態度 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。				
教科書 (出版社)	生物基礎（東京書籍）	副教材 (出版社)	リード Light ノート 生物基礎（数研出版）		
留意点				開 講 予定人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	・生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身につけた。
思考・判断・表現	・生物や生物現象についての知識を活用し、思考することができた。 ・観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
主体的に学習に取り組む態度	・生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を身につけた。

(2) 評価方法

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法			
定期考査・小テスト	◎	○	
ワークシート	○	◎	◎
学習観察			◎

3 履修上および学習上の注意

- 1 日常生活の中で起こる様々な自然現象に興味をもち、その法則性について考える態度をもつこと。
- 2 疑問に思ったことを確かめてみようという態度をもつこと。
- 3 学んだことをより正確に記録する方法と態度を身につけること。

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
---	-----------	----	-------

4	第1章 生物の特徴 1 生物の多様性 2 生物の共通性 3 生物の進化と系統 4 細胞と個体の成り立ち 5 真核細胞の構造 6 原核細胞の構造 7 生命活動とエネルギー 8 ATP の構造 9 生体内の化学反応と酵素 10 光合成と呼吸 【前期中間考査】	14	【知】・生物がもつ多様性と共通性を理解している。 ・細胞のしくみや生物の構造を整理し、理解している。 【主】・細胞の観察手法や顕微鏡操作に主体性を持って理解しようと 取 り組み、実験結果を正しくまとめ、アウトプットしようとする。 【思】・脊椎動物に至るまでの進化の道筋と関連付けて考察できる。 【知】・代謝を正しく認識することができる。 ・植物にとって光エネルギーの持つ意味を正しく理解する。 ・生物が有機物を利用する意味と必要性、しくみを正しく理解す る。
5	第2章 遺伝子とその働き 11 生物と遺伝情報 12 DNA の構造と遺伝情報 13 DNA 複製 14 DNA と染色体	13	【知】・生物学における遺伝子の正しい意味を認識することができる。 【主】・遺伝子本体の物質の解明に向けた先人の実験手法や結果に関 心 を持って理解しようとする。 【知】・遺伝情報をになう物質としての DNA の特徴について理解す る。
6	15 細胞周期と DNA の分配 16 細胞周期と DNA 量の変化 17 遺伝子発現とタンパク質 18 転写と翻訳 19 遺伝暗号表		・DNA が複製され分配されることにより、増殖した細胞に遺伝情報 が伝えられることを理解する。 ・塩基配列がタンパク質の種類を指定するしくみを理解する。 【思】遺伝子に関連する、SNS 上などで拡散している情報について 正 しく認識することができる。
7	20 遺伝子発現と維持 【前期期末考査】	13	【知】・体内環境の恒常性が保たれるしくみを理解する。 ・体内環境の維持に自律神経とホルモンがかかわっていることを理 解する。 ・心拍数、体温、血糖量を調節することの必要性を正しく理解す る。
8	第3章 神経系・内分泌による調節 21 恒常性と体液 22 血液凝固と線溶 23 恒常性に関わる神経系 24 自律神経系と脳死 25 ホルモンによる調節 26 ホルモン分泌の調節 27 血糖濃度の変化と糖尿病 28 血糖濃度の調節のしくみ 29 体温と水分量の調節 【後期中間考査】	10	【主】・自律神経系や内分泌系が、心拍数、体温、血糖量などを調節 す るしくみに関心を持って探究しようとする。
9	第4章 免疫 30 生体防御の概要 31 異物の侵入を阻止するしくみ 32 自然免疫のしくみ 33 獲得免疫の概要 34 細胞性免疫と体液性免疫 35 抗体とその利用 36 免疫記憶とその利用 37 免疫と病気① 38 免疫と病気②	10	【知】・免疫とそれにかかわる物質や細胞の働きについて理解する。 ・それぞれの免疫細胞の役割とそれらを制御するしくみを理解す る。 【思】・予防接種をはじめとした免疫に関する医療技術やその諸問題 に 科学的な判断と考察ができる。
10	第5章 植生と遷移 39 環境と生物 40 光の強さと植物 41 森林の階層構造と土壌 42 遷移の過程 43 遷移に伴う環境の変化 44 遷移と世界のバイオーム 45 日本のバイオーム 【後期期末考査】	10	【知】・陸上には気象条件に適応した多様な植生が見られることを理 解 する。 ・植生は、植物自身が変成した環境に適応した結果、長期的に移り 変 わっていくことを理解する。 【主】・気候に適応した様々なバイオームが成立していることとその 特徴を整理しようとする。
11	第6章 生態系とその保全 46 生態系における生物の役割 47 種の多様性と食物連鎖 48 生態系と生態ピラミッド 49 キーストーン種と絶滅 50 生態系のバランスと変動 51 人間活動と生態系 52 生物濃縮 53 外来生物 54 生物多様性と生態系の保全 55 生態系と人間生活	10	【思】・生態系のバランスについての理解に基づき、生態系保全と人

			間生活の関わりの重要性を認識する。
--	--	--	-------------------

1 科目の概要

学年・年次	教 科	科 目	選 択	区 分	単位数
1 年次	保健体育	体育	-	必修・必修・選択	3
科目の 目 標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質能力を育成する。				
教科書 (出版社)	現代高等保健体育（大修館書店）	副教材 (出版社)			
留意点				開 講 予定人数	

2 評価の方法

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、科学的な知識を基に運動に必要な技能を養う。
思考・判断・表現	各領域特有の特性や魅力に応じた課題を発見し、合理的計画的な課題解決の過程の中で思考し判断するとともに、自己や仲間の新たな課題を発見し、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。
主体的に学習に取り組む態度	運動における競争や協働の経験を通して、ルールやマナーを大切にし、仲間と協力し積極的に取り組む力を養う。また、他者を尊重し、自己の責任を果たし、主体的に取り組む力を養う。

(2) 評価方法

観 点 評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
実技テスト・ゲーム	○	○	○
ワークシート	○	○	○
学習観察		○	○

3 履修上および学習上の注意

- 各領域において安全面に留意し、自他共に怪我のないように心掛けること。 - 体育理論の授業において、保健の教科書を使用する。 - 運動が苦手でも一生懸命取り組み、自己の運動技能について探究し、課題解決に向けて考えること。技能テストのみで評価するのではなく、それらを総合的に評価する。
--

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点（抜粋）
4	オリエンテーション	12	「体づくり運動」 【知】体を動かす楽しさや心地よさを味わい体力向上を目指し取り組むことができる 【思】自己や仲間の課題を発見し、課題解決方法を共有し取り組もうとしている
5	2「体育理論」	3	【主】 一人一人の違いに応じて取り組み、健康安全を確保している 「体育理論」 【知】スポーツの文化的特性や現代スポーツの発展について理解することができる 【思】スポーツの歴史的発展等について自己の考えを伝えようとしている
6	3「マット運動」 「陸上競技（走・投擲）」	12	【主】 課題発見のための意見交流など進んで取り組むことに留意している 「マット運動」 【知】基本的な技を滑らかに安定して行い、発展技及び構成し演技することができる 【思】技習得のために自他で課題を解決しようとしている 【主】 自主的に互いに教え合い、良い演技を讃え取り組んでいる 「陸上競技（走・投擲）」 【知】記録向上や競争の楽しさを味わい、各種目の技能を身に付けることができる 【思】動きなどの改善ポイントを発見し、自他で課題を解決しようとしている
7	4「バレーボール」 「マット運動」	12	【主】 ルール・マナーを大切にし、健康安全を確保している 「バレーボール」 【知】安定した用具の操作や連携した動きによって、空間をめぐる攻防をすることができる 【思】自己やチームの課題を発見し、互いに考えたことを伝えようとしている
8	5「陸上競技（走・投擲）」 「バレーボール」	12	【主】 フェアプレーを大切にし、互いに教え合い取り組んでいる 「領域選択」 【知】安定した用具・ボールの操作や連携した動きによって、空間をめぐる攻防、状況に応じた守備や打撃をすることができる 【思】自己やチームの課題を発見し、互いに考えたことを伝えようとしている
9	6領域選択 「ソフトボール・サッカー・ソフトテニス」	13	【主】 フェアプレーを大切にし、互いに教え合い取り組んでいる 「バスケットボール」 【知】安定したボール操作や連携した動きによって、空間をめぐる攻防をすることができる 【思】自己やチームの課題を発見し、互いに考えたことを伝えようとしている
10	7「バスケットボール」 「ダンス」	14	【主】 フェアプレーを大切にし、互いに教え合い取り組んでいる 「バスケットボール」 【知】安定したボール操作や連携した動きによって、空間をめぐる攻防をすることができる 【思】自己やチームの課題を発見し、互いに考えたことを伝えようとしている
11	8「柔道」 「バスケットボール」	12	【主】 フェアプレーを大切にし、互いに教え合い取り組んでいる 「ダンス」 【知】イメージを捉え、簡単な作品にまとめて発表することができる 【思】表現の仕方などの課題を発見し、互いに考えたことを伝えようとしている
12	9「スキー」	12	【主】 自主的に互いに教え合い、良い演技を讃え取り組んでいる 「柔道」 【知】相手の変化に応じて攻防を展開することができる 【思】動きなどの改善ポイントを発見し、自他で課題を解決しようとしている
1	10「体育理論」	3	【主】 礼法を大切にし、相手を尊重し、健康安全を確保している 「スキー」 【知】ブルークからパラレルまで安定したスキー操作を実践することができる 【思】動きなどの改善ポイントを発見し、自他で課題を解決しようとしている
2			【主】 ルール・マナーを大切にし、健康安全を確保している
3			

1 科目の概要

学年・年次	教 科	科 目	選 択	区 分	単位数
1 年次	保健体育	保健	-	必修・必修・選択	1
科目の 目 標	保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、その解決を図る主体的・協働的な学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯を通じて心身の健康を保持増進するための資質能力を育成する。				
教科書 (出版社)	現代高等保健体育（大修館書店）	副教材 (出版社)			
留意点				開 講 予定人数	

2 評価の方法

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	個人だけでなく社会生活の健康・安全について、総合的に理解できるようにするとともにそれらの内容に関わる力を養う。
思考・判断・表現	健康に関わる事象や健康情報などから自他や社会の課題を発見し、より良い解決に向けて思考したり、様々な解決方法の中から適切な方法を選択するなど、判断したり、他者に表現することができる力を養う。
主体的に学習に取り組む態度	自他の健康やそれを支える環境づくりに関心を持ち、現在だけでなく生涯を通じて健康の保持増進や回復を目指す実践力を養う。

(2) 評価方法

観 点 評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
定期考査・小テスト	○	○	
ワークシート	○	○	○
学習観察		○	○

3 履修上および学習上の注意

・1 単位科目のため欠課時数に留意すること。 ・授業で使用する教材は教科書のみであるため、教科担任から配布される教材の保管について留意すること。 ・教科書は1、2 年次の保健のみならず、1～3 年次体育の「体育理論」時にも使用するため、紛失しないように管理すること。

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点（抜粋）
4	オリエンテーション		「健康の考え方」 【知】健康を保持増進するためには現代の健康課題や疾病構造の変化を把握し、自ら適切に管理することが必要であることを理解できる 【思】現代社会と健康における情報や事象について整理したり、自他や社会の課題を発見したりしている。 【主】自他の健康や環境づくりに関心を持ち、積極的に授業に参画している。
5	【現代社会と健康】 1 「健康の考え方と成り立ち」 2 「私たちの健康のすがた」 3 「生活習慣病の予防と回復」 4 「がんの原因と予防」 5 「がんの治療と回復」	6	「現代の感染症とその予防」 【知】感染症の予防には社会的対策を前提として個人的対策が必要であることを理解できる 【思】感染症の発生や流行の事例を通して整理し、感染症のリスク軽減のための取り組みや対策に応用している 【主】自他の健康や環境づくりに関心を持ち、積極的に授業に参画している。
6	6 「運動と健康」 7 「食事と健康」 8 「休養・睡眠と健康」	4	「生活習慣病などの予防と回復」 【知】生活習慣病の予防には定期的な検診はもとより基本的な正しい習慣が必要であることを理解できる 【思】自他の状況から分析し、リスク軽減や生活の質向上に必要な取り組みや対策について整理している 【主】自他の健康や環境づくりに関心を持ち、積極的に授業に参画している。
7	9 「喫煙と健康」 10 「飲酒と健康」		
8	11 「薬物乱用と健康」	4	「喫煙・飲酒・薬物乱用と健康」 【知】健康悪化防止をするためには健全な価値観や規範意識の向上、法的な規制等が必要であることを理解できる 【思】個人の働きかけと社会環境への対策の面から分析したり、諸外国と比較したりして防止策を評価している 【主】自他の健康や環境づくりに関心を持ち、積極的に授業に参画している。
9	【前期期末考査】	1	
10	12 「精神疾患の特徴」 13 「精神疾患の予防」 14 「精神疾患からの回復」	4	「精神疾患の予防と回復」 【知】精神疾患の予防と回復には調和のとれた生活を実践することやストレスを緩和することが重要であることを理解できる 【思】不調に早く気付くために必要な個人の取組や社会的な対策を整理している 【主】自他の健康や環境づくりに関心を持ち、積極的に授業に参画している。
11	15 「現代の感染症」 16 「感染症の予防」 17 「性感染症・エイズとその予防」	4	「安全な社会作り」 【知】自他の生命を尊重するとともに、車両の特性や適切な行動、環境整備等が必要であることを理解できる 【思】様々な事故や災害の事例から、安全に関する情報を整理し、危険を予測し回避するための取り組みを評価・考察している 【主】自他の健康や環境づくりに関心を持ち、積極的に授業に参画している。
12	18 「健康に関する意思決定・行動選択」 19 「健康に関する環境づくり」	2	
1	【安全な社会生活】 1 「事故の現状と発生要因」 2 「安全な社会の形成」 3 「交通における安全」	4	「応急手当」 【知】適切な応急手当は自他の生命を守ることや苦痛の軽減に繋がることを理解できる 【思】事故や災害で生じる傷害や疾患に関連付けて、実習等で悪化防止のための適切な方法に応用している 【主】自他の健康や環境づくりに関心を持ち、積極的に授業に参画している。
2	【後期期末考査】	1	
3	4 「応急手当の意義とその基本」 5 「日常的な応急手当」	3	
	6 「心肺蘇生法」	2	

1 科目の概要

学年・年次	教 科	科 目	選 択	区 分	単位数
1 年次	英語	英語コミュニケーションⅠ	-	必修・必修・選択	3
科目の 目 標	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、以下の5つの領域において言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を養う。具体的な活動・領域は以下の通り。 (1) 聞くこと ア 日常的及び社会的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握することや概要や要点を目的に応じて捉えることができるようにする。 (2) 読むこと ア 日常的及び社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握することや概要や要点を目的に応じて捉えることができるようにする。 (3) 話すこと〔やり取り〕 ア 日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けることができるようにする。 イ 社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝え合うことができるようにする。 (4) 話すこと〔発表〕 ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができるようにする。 イ 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができるようにする。 (5) 書くこと ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができるようにする。 イ 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができるようにする。				
教科書 (出版社)	LANDMARK Fit English Communication Ⅰ (啓林館)	副教材 (出版社)	LANDMARK Fit English Ⅰ Workbook (啓林館) 英単語・熟語 Bricks 1 (いいずな書店) Listening platform 1 (いいずな書店)		
留意点				開 講 予定人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	- 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 - 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。
思考・判断・表現	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。
主体的に学習に取り組む態度	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的かつ自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

(2) 評価方法

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取 り 組 む 態 度
評価方法			
定期考査・小テスト リスニングテスト 等	◎	○	○
定期考査・ワークシート パフォーマンステスト 等	○	◎	○
学習観察・提出物 授業や課題への取り組み 等	○	○	◎

3 履修上および学習上の注意

- 言語活動に取り組む態度を持ち、異国の文化を学んでください。
- この授業は習熟度別展開授業で実施されます。

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	〇オリエンテーション	1	（使用教材や授業の進め方）
	Preparatory Lesson	5	（知）自己紹介を英語でできる。 （思）自己紹介で表現力を見せる。 （主）相手が理解しやすいように自己紹介ができる。
5	Lesson 1	9	（知）不定詞や動名詞を用いた文の用法を理解している。 （思）自分の考えを相手が理解しやすく伝える。 （主）自分の考えを相手に理解しやすく伝えようとしている。
6	Lesson 2	9	（知）現在完了や受動態を用いた文の用法を理解している。 （思）自分の考えを相手が理解しやすく伝える。 （主）自分の考えを相手に理解しやすく伝えようとしている。
	【前期中間考査】	1	
	Lesson 3	9	（知）比較級・分詞・関係代名詞を用いた文の用法を理解している。 （思）自分の考えを相手が理解しやすく伝える。 （主）自分の考えを相手に理解しやすく伝えようとしている。
7	Optional Reading 1	3	
	Communication in Practice 1	3	
8	Lesson 4	9	（知）関係代名詞や関係副詞を用いた文の用法を理解している。 （思）自分の考えを相手が理解しやすく伝える。 （主）自分の考えを相手に理解しやすく伝えようとしている。
9	【前期期末考査】	1	
	Lesson 5	9	（知）原形不定詞を用いた文の用法を理解している。 （思）自分の考えを相手が理解しやすく伝える。 （主）自分の考えを相手に理解しやすく伝えようとしている。
10	Lesson 6	9	（知）that 節や対比を用いた文の用法を理解している。 （思）自分の考えを相手が理解しやすく伝える。 （主）自分の考えを相手に理解しやすく伝えようとしている。
	Optional Reading 2	3	
11	Communication in Practice 2	3	
	【後期中間考査】	1	
12	Lesson 7	10	（知）分詞構文を用いた文の用法を理解している。 （思）自分の考えを相手が理解しやすく伝える。 （主）自分の考えを相手に理解しやすく伝えようとしている。
1	Lesson 8	10	（知）過去完了や仮定法を用いた文の用法を理解している。 （思）自分の考えを相手が理解しやすく伝える。 （主）自分の考えを相手に理解しやすく伝えようとしている。
2	【後期期末考査】	1	
3	Further Reading	9	（知）比較的長い英文の内容を理解することができる。 （思）自分の考えを相手が理解しやすく伝える。 （主）自分の考えを相手に理解しやすく伝えようとしている。

1 科目の概要

学年・年次	教 科	科 目	選 択	区 分	単位数
1 年次	英語	論理・表現Ⅰ	-	必履修・必修・選択	3
科目の 目 標	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、以下の3つの領域において言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を養う。具体的な活動・領域は以下の通り。 (1) 話すこと〔やり取り〕 ア：日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合ったり、やり取りを通して必要な情報を得たりすることができるようにする。 イ：日常的话题や社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、ディベートやディスカッションなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して話して伝え合うことができるようにする。 (2) 話すこと〔発表〕 ア：日常的话题について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して話して伝えることができるようにする。 イ：日常的话题や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、スピーチやプレゼンテーションなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して話して伝えることができるようにする。 (3) 書くこと ア：日常的话题について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができるようにする。 イ：日常的话题や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができるようにする。				
教科書 (出版社)	MY WAY Logic and Expression Ⅰ (三省堂)	副教材 (出版社)	MY WAY ワークブック (三省堂)、 マイウェイ総合英語 (三省堂)		
留意点				開 講 予定人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	- 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 - 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。
思考・判断・表現	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。
主体的に学習に取り組む態度	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的かつ自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

(2) 評価方法

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
評価方法			
定期考査、小テスト 等	◎	○	○
定期考査、ワークシート、パフォーマンステスト 等	○	◎	○
学習観察、授業や課題への取り組み、提出物	○	○	◎

3 履修上および学習上の注意

言語活動に取り組む態度を持ち、コミュニケーション能力の向上に努めてください。
--

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
5	○オリエンテーション （使用教材や授業の進め方）	1	
	Lesson 1	9	（知）be 動詞・一般動詞の現在形の特徴の知識や初対面のあいさつの技能があること。 （思）be 動詞・一般動詞を用い、初対面のあいさつ・会話ができる。 （主）be 動詞・一般動詞を用い、初対面のあいさつ・会話をしようとしている。
	Lesson 2	9	（知）動詞の過去形や進行形を使い、自分の学校や住んでいる地域のことを表現できる。 （思）自分の学校や住んでいる地域のことを伝えることができる。 （主）自分の学校や住んでいる地域のことを伝えようとしている。
	Lesson 3	9	（知）未来の表現の知識を使い、予定や自分の考えを伝えることができる。 （思）未来の予定・自分の気持ちを相手が理解しやすく伝える。 （主）未来の予定・自分の考えを相手に理解しやすく伝えようとしている。
6	【前期中間考査】	1	
	Lesson 4	10	（知）現在完了を用いた文の用法を理解している。 （思）現在完了を用いた文で自分のことを相手が理解しやすく伝える。 （主）現在完了を用いた文で自分のことを相手が理解しやすく伝えようとしている。
	Lesson 5	10	（知）助動詞・受動態を用いた文の用法を理解している。 （思）助動詞・受動態を用いた文で観光地への行き方を理解しやすく伝える。 （主）助動詞・受動態を用いた文で観光地への行き方を理解しやすく伝えようとしている。
7			
	Lesson 6	10	（知）不定詞を用いた文の用法を理解している。 （思）不定詞を用いた文で旅行中の出来事を相手が理解しやすく伝える。 （主）不定詞を用いた文で旅行中の出来事を相手が理解しやすく伝えようとしている。
	【前期期末考査】	1	
	Lesson 7	10	（知）動名詞・分詞を用いた文の用法を理解している。 （思）動名詞・分詞を用いた文でスポーツのことを相手に理解するように伝える。 （主）動名詞・分詞を用いた文でスポーツのことを相手に理解するように伝えようとしている。
8			
	Lesson 8	10	（知）比較級を用いた文の用法を理解している。 （思）賛成・反対を相手が理解しやすく伝える。 （主）賛成・反対を相手に理解しやすく伝えようとしている。
	【後期中間考査】	1	
	Lesson 9	10	（知）関係代名詞を用いた文の用法を理解している。 （思）身体と健康について自分の考えを相手が理解しやすく伝える。 （主）身体と健康の自分の考えを相手に理解しやすく伝えようとしている。
9			
	Lesson 10	10	（知）関係副詞や仮定法を用いた文の用法を理解している。 （思）SDGSの自分の考えを相手が理解しやすく伝える。 （主）SDGSの自分の考えを相手に理解しやすく伝えようとしている。
	【後期期末考査】	1	
10	1年のまとめ	3	

1 科目の概要

学年・年次	教 科	科 目	選 択	区 分	単位数
1 年次	家庭科	家庭基礎	-	必修・必修・選択	2
科目の 目 標	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境について、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。 (2)家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして生涯を見通して課題を解決する力を養う。 (3)様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。				
教科書 (出版社)	家庭基礎 自立・共生・創造 (東京書籍 家基 701)	副教材 (出版社)			
留意点	実習費3,000円徴収します。			開 講 予定人数	

2 評価の方法

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。
思考・判断・表現	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。
主体的に学習に取り組む態度	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組み、振り返りから改善して、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。

(2) 評価方法

観 点 評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
実技・小テスト	○		
ワークシート		○	○
学習観察			○

3 履修上および学習上の注意

--

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4	オリエンテーション 第1章 生涯を見通す	1 2	人の一生について様々な生き方があることを理解し生活課題に対応して意思決定の重要性を理解している	生涯を見通した自己の生活について考察し、表現できる	生涯の生活設計について考え、生活の充実向上を実践しようとしている
5	第2章 人生をつくる	5	青年期の課題、家族・家庭の機能と家族関係について理解している	家族の一員として役割を果たし、家庭を築くことの重要性について問題を見出して課題を解決する力を身に着けている	青年期の自立と家族・家庭について、課題の解決に取り組んでいる
6	第7章 衣生活をつくる	10	被服の機能と着装、被服材料、被服構成及び被服衛生について理解し、被服の計画・管理に必要な技能を身に付けている	被服の機能性や快適性、安全で健康や環境に配慮した被服の管理や目的に応じた着装について考察することができる	衣生活と健康について、課題の解決に取り組んでいる
7					
8	第9章 経済生活を営む	9	家計の構造や生活の経済と社会の関わり、家計管理について理解している	生活における経済の管理や計画の重要性について、ライフステージや社会保障制度と関連付け、問題を見出して課題を解決する力を身に着けている	消費行動と意思決定について、課題の解決に取り組んでいる
9					
10	第10章 持続可能な生活を営む	2	生活と環境との関わりや持続可能な消費について理解している	持続可能な社会を目指して行動できるよう問題を見出して課題を解決する力を身に着けている	持続可能なライフスタイルと環境について、課題の解決に取り組んでいる
	第8章 住生活をつくる	5	住生活の特徴、機能について理解し、計画・管理の技能を身に付けている	住居の機能性や快適性について考察することができる	住生活と住環境について、課題の解決に取り組んでいる
11	第3章 子どもと共に育つ	9	幼児期の心身の発達と生活、親の役割と保育、子育て支援について理解し、乳幼児と適切に関わるための基礎的な技能を身に付けることができる	子供を生み育てることの意義について考え、子供の健やかな発達のために問題を見出して課題を解決する力を身に着けている	子供の生活と保育について、課題の解決に主体的に取り組んでいる
12					
1	第6章 食生活をつくる ホームプロジェクト	17	栄養の特徴や食品の性質、健康や環境、安全に配慮した食生活について理解し、自己や家族の食生活の計画・管理に必要な技能を身に付けている	食の安全や食品の調理上の性質、食文化の継承を考慮した献立作成や調理計画、健康や環境に配慮した食生活について考察することができる	食生活と健康について、課題の解決に主体的に取り組んでいる
2					
3	第4章 超高齢社会を共に生きる	6	高齢期の心身の特徴、尊厳と自立生活の支援や介護について理解し、生活支援に関する基礎的な技能を身に付けている	高齢者の自立生活を支えるために、家族や地域及び社会の果たす役割の重要性について問題を見出して課題を解決する力を身に着けている	高齢期の生活と福祉について、課題の解決に主体的に取り組んでいる
	第5章 共に生き、共に支える	3	家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解している	家庭や地域及び社会の一員として共に支え合って生活することの重要性について問題を見出して課題を解決する力を身に着けている	よりよい社会の構築に向けて共生社会と福祉について、課題の解決に主体的に取り組んでいる
	第11章 これからの生活を創造する	1	人の一生について様々な生き方があることを理解し生活課題に対応して意思決定の重要性を理解している	生涯を見通した自己の生活について考察し表現できる	生涯の生活設計について考え、生活の充実向上を実践しようとしている

1 科目の概要

学年・年次	教 科	科 目	選 択	区 分	単位数
1 年次	情報	情報 I	-	必修・必修・選択	2
科目の 目 標	情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 情報と情報技術及びこれらを活用して問題を発見・解決する方法について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについての理解を深めるようにする。 (2) 様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。 (3) 情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。				
教科書 (出版社)	新編情報 I (東京書籍)	副教材 (出版社)			
留意点				開 講 予定人数	

2 評価の方法

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについて理解を深めるようにする。
思考・判断・表現	様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。
主体的に学習に取り組む態度	情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。

(2) 評価方法

観点 評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
実技・テスト	○		
ワークシート		○	
学習観察			○

3 履修上および学習上の注意

実技ではタブレットを使用する。毎時、自宅で充電して授業に挑むこと。

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	1章 情報で問題を解決する 1 情報とメディアの特性 2 問題解決の流れ 3 発想法 4 情報モラル 5 個人情報の流出	15	【知】 情報やメディアの特性を踏まえ、情報と情報技術を活用して問題を発見・解決する方法を身に付けている。情報に関する法規や制度、情報セキュリティの重要性、情報社会における個人の責任及び情報モラル、情報技術が人や社会に果たす役割と及ぼす影響について理解できる。 【思】 目的や状況に応じて、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用して問題を発見・解決する方法、情報と情報技術の適切かつ効果的な活用と望ましい情報社会の構築について考察できる。情報に関する法規や制度及びマナーの意義、情報社会において個人の果たす役割や責任、情報モラルなどについて、それらの背景を科学的に捉え、考察できる。 【主】 問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。
5	6 傷つかない傷つけないために 7 著作権 8 情報技術の発展 9 情報化と私たちの生活の変化 10 よりよい情報社会へ		
6	2章 情報を伝える 11 ミニケーション手段の変化 12 ネットミニケーションの特徴 13 デジタルの世界へ 14 数値と文字のデジタル表現	15	【知】 メディアの特性とミニケーション手段の特徴について、その変遷も踏まえて科学的に理解できる。情報デザインが人や社会に果たしている役割を理解できる。効果的なミニケーションを行うための情報デザインの考え方や方法を理解し表現する技能を身に付けている。 【思】 メディアとミニケーション手段の関係を科学的に捉え、それらを目的や状況に応じて適切に選択できる。ミニケーションの目的を明確にして、適切かつ効果的な情報デザインを考えられる。効果的なミニケーションを行うための情報デザインの考え方や方法に基づいて表現し評価し改善できる。 【主】 問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。
7	15 音と画像のデジタル表現 16 色と動画のデジタル表現 17 目的に応じたデジタル化		
8	18 情報デザイン 19 ユニバーサルデザイン 20 情報デザインの流れ		
9			
10	3章 コンピュータを活用する 21 コンピュータとは何か 22 ソフトウェアの仕組み 23 演算の仕組みとコンピュータの限界 24 アルゴリズムの表現 25 プログラムの基本構造 1	25	【知】 コンピュータや外部装置の仕組みや特徴、コンピュータでの情報の内部表現と計算に関する限界、社会や自然などにおける事象をモデル化する方法、ミニケーションを通してモデルを評価し改善する方法について理解できる。アルゴリズムを表現する手段、プログラミングによってコンピュータや情報通信ネットワークを活用する方法について理解し技能を身に付けている。 【思】 コンピュータで扱われる情報の特徴とコンピュータの能力との関係について考察できる。目的に応じたアルゴリズムを考え適切な方法で表現し、プログラミングによりコンピュータや情報通信ネットワークを活用するとともに、その過程を評価し改善できる。目的に応じたモデル化やミニケーションを適切に行うとともに、その結果を踏まえて問題の適切な解決方法を考えられる。 【主】 問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。
11	26 プログラムの基本構造 2 27 発展的なプログラム 1 28 発展的なプログラム 2 29 モデル化とシミュレーション 30 シミュレーションの活用		
12			
1	4章 データを活用する 31 ネットワークとインターネット 32 インターネットの仕組み	15	【知】 情報通信ネットワークの仕組みや構成要素、プロトコルの役割及び情報セキュリティを確保するための方法や技術、データを蓄積、管理、提供する方法、情報通信ネットワークを介して情報システムがサービスを提供する方法と特徴について理解できる。データを表現、蓄積するための表し方と、データを収集、整理、分析する方法について理解し技能を身に付けている。 【思】 目的や状況に応じて、情報通信ネットワークにおける必要な構成要素を選択するとともに、情報セキュリティを確保する方法、情報システムが提供するサービスの効果的な活用について考えられる。データの収集、整理、分析及び結果の表現の方法を適切に選択し、実行し、評価し改善できる。 【主】 問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。
2	33 サーバとクライアント 34 インターネット上のサービス 35 情報セキュリティ 36 データの形式 37 データベースの活用		
3	38 さまざまなデータモデル 39 データ分析の流れ 40 目的に合わせたデータの活用		